

2011年6月27日

私のFD体験

—授業撮影および公開授業を通して—

教育開発支援機構

FD推進センター長 川上 忠重

他大学とのFD活動の連携の一環として、授業撮影（授業支援ツールの一環として公開予定）や公開授業への参加の機会をいただいた。これらのFD体験について少し紹介したい。

1. 授業撮影

神奈川県立工科大学遠山紘司先生からの依頼により、理工学部機械工学科3年生対象の「内燃機関」の授業を昨年度撮影した。撮影時間は90分である。授業はシラバスでは、前期15回の授業の中で8回目に位置し、ガソリンエンジン内の燃焼について紹介したものである。今回の授業の中での到達目標は、内燃機関における燃焼の基本事項およびガソリン機関内の火炎伝播に関する特徴を正確に把握し、理解することである。通常よりやはり撮影が入っていることで、教員も学生も少し緊張したが、撮影もインタビューも無事終了した。数か月後、編集作業を終え自分の授業について、自己採点を行ってみると、いろいろ気になる点もあることがあらためて確認できた。自分では、板書の仕方にはかなり注意を払っているつもりではあるが、カメラの位置によっては一部不明瞭な部分もあった。また、プロジェクターを使い、燃焼の可視化映像等を紹介する部分では、立ち位置や説明と板書の間等、自己採点するだけでも、個人レベルで十分対応できるFDとして非常に役立った。同様結果が期待できる手軽な方法として、授業風景を個人でPCカメラ等を用いて撮影し、自己チェックを行ったり、ゼミ生などに自分の授業の感想等を聞くのも、多くの授業改善のヒントとなるであろう。

2. 公開授業

帝京大学高等教育開発センター井上史子先生からの依頼により、帝京大学「ピア・エデュケーションI」の公開授業に参加させていただいた。本授業は、大学の歴史や理念・目的、学生相互の学び合いの仕組み、国内外におけるピア・エデュケーションの歴史、制度や教育方法などの知識について、講義だけでなくグループワークやディスカッション、個人発表などを交えながら行う、学生参加型の授業である。今回は公開授業として、帝京大学の多くの教職員の方も参加されていた。やはり、他の先生の授業方法（到達目標の説明、レジュメの準備、配布、授業進行およびまとめの仕方等々）を実際の学生がいる教室で体験できるのは、貴重な機会であった。特に学生参加型の授業における、学生コーディネーターの準備や段取り、また各グループワーク班の発表では、短い授業内での授業運営方法の工夫により、到達目標が確実に実現されていることが把握でき、自分の授業への適応の啓発にもなった。授業参観や公開授業は、当然、授業評価という面が一部にはあるが、多くの実践的なツール活用を含めた要素を確認することができる面をあらためて実感することができた。

以上